

## ヤガタアリグモ

以前、種名が分からないまま、アリに似ているアリグモの種類を紹介しました。紹介したアリグモは、雄でした。そのため、頭胸部と腹部は、アリの形に似ているのですが、頭部の先端にある上顎(じょうがく)があまりにも強力で、アリの形とは異なる感じでした。雄のアリグモを元に「衛生動物だより」の文章を書いている、多少違和感がありました。今回、雌のアリグモの相談がありました。雌は、間違いなくアリによく似ています。

## 種名

インターネットで調べていると、日本のアリグモについて詳しく解説している「日本のアリグモ属 同定の手引き(石田岳士)」というサイトを見つけました。そのサイトの画像を見ると、どうやら、今回の雌のアリグモは、ヤガタアリグモのようでした。また、以前に紹介した雄も、サイトの内容から、また、雌との色彩などの比較から、ヤガタアリグモと思われました。

## クモの生殖

触肢(しょくし)と呼ばれる器官があります。昆虫の触角のような働きをする器官ですが、クモでは、触肢と呼ばれます。元々、脚が変化してきたために、あえて肢(あし)という漢字を使っているようです。成熟した個体では、この触肢で簡単に雌雄を分けることができます。雄の触肢は、雌と比較して先端部が大きく膨らみます。雄の触肢の先端部分が膨らんでいるのは、生殖器官としての役割を果たすためです。膨らんでいる中に栓子や生殖球などの複雑な器官があります。

糸で巣を作るクモでは、巣の縦糸の間に精網と呼ばれる特殊な網を張り、そこに腹部の下部から出した精子を付けます。その精子を直ちにストローのような栓子で吸い取り、栓子の根元の生殖球に精子を貯めます。何度か同じ行動を取り、十分に生殖球に精子が溜まれば、相手になる雌を探しに出かけます。種類によって求愛行動は様々ですが、アリグモの場合、雄の巨大な上顎と上顎先端の牙は、雌にプロポーズするために使われているとのこと。そして、気が合えば雌の腹部の下の部分にある生殖口に栓子をいれ、精子を注入します。

## 鑑別の重要な標識

生殖に大きく係わる雄の触肢や雌の生殖器の形状は、種類を鑑別するうえで非常に重要な標識です。今回、幾つかの画像は、観察しやすくするために雌雄とも KOH の10%水溶液に入れ、10分程度湯煎処理をしたうえでプレパラート標本にし、撮影しました。



以前アリグモの一種として紹介したヤガタアリグモの雄



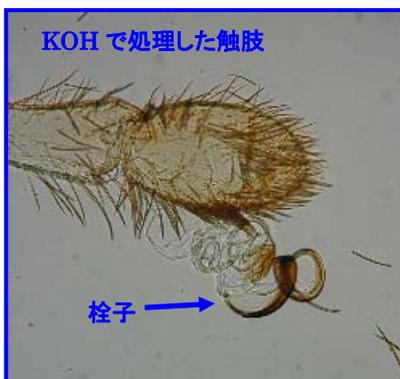
ヤガタアリグモの雌



雄の上顎と牙



雌の生殖器の位置



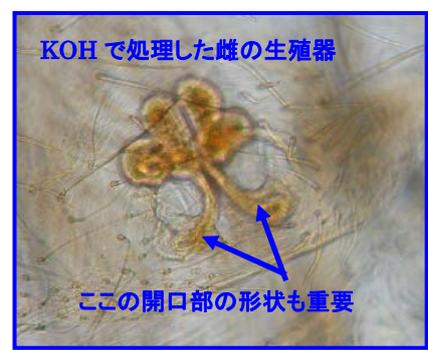
KOH で処理した触肢

栓子



雄の触肢の先端部分

ここに栓子や生殖球が入っている



KOH で処理した雌の生殖器

この開口部の形状も重要